

ところ、細々として哀絲脆竹の聲あり、薄寒を覺えたらば旅館に還る、床の間に無名氏の津川竹枝一幅を懸くるを讀む、曰ふ

恐有潜龍夜出游。小祠倚岸枕長流。多情天女還多恨。迎送湘雲楚雨舟。

蓋し河の上游に辨財天祠あればなるべし、貧しき韻字を搜りて、余も亦た惡詩之れに和す、

雲鬢十二如巴峽。秋入青樓燈火流。綺夢低迷半宵月。寒衣清淺送郎舟。

又

簇々粉華河上游。湘簾淺捲映江流。娥眉有意靠欄角。目送出雲入雨舟。

後絶の結句、格の孤平に破れしを枕上に推敲しつつ、何時しか夢に入る、翌れば二十六日、

七

天は好霽を余に錫ふて、二十六日の朝は來りぬ、風流縁あり、多年、詩後醒後夢後に於て、想ひを此の山水に馳せたるもの、今其の宿昔の願ひを果すことを得るなり、朝食の箸を投するや、踊躍して旅館を出たり、少婢、傘と雜篋と着吳座とを提さげて余を水濱に導きぬ、舟あり汀に横はる、乃ち少婢を還して之れに乗る、

舟は極めて尖小なり、長さ二丈ばかり、幅は三尺有奇、其の形宛がら笹の葉に似たり、舟子二人一人は軸にあり他は櫂に在りて、尖れる櫂を手に執りぬ、津川より小石取及び馬下に至る水路六里強、船賃三十錢、三時間を以て下る、舟を共にする人、曩に奉天の會戰に闘ひて創を負ひ、近

く歸還し來りたる兵士三人、娘を新津の家に伴ひ還る老女、行商者三人、余を合せて九人なり、八時三十分、船は纜を解きて阿賀の川の中流に出でたり、川の幅は隅田川よりも廣かるべし、兩岸の青嶂、一道の碧流、天は江山の圖畫を披きぬ、船を縦ちて行く／＼首を回らせば、津川の町は早く風煙の外に在りて、其の對岸の筆架山は、實に紫水晶の其れの如く、綠陰日に背いて頽嵐江に敷きたり、江の上游、山あること幾峰ぞ、蒼々莽々として相累み相重りて高く天に連らる、皆な是れ前日歴來たりしの山なり、此の亂山を仰ぎ看たるの余は、始めて夏の山の色の、地上の夏の花の色よりも多くして且美しきを覺りたり、山の近きは紺碧、次なるは深藍、更に次なるは鮮碧、遠くして淡紫、いよく遠くして淺青、更にいよく遠くして、有無として淨玻璃の空に入るなり、

船下ること一里半、遙かに清川の村を望むのところに至る、左方に巨峰あり、全峰皆な石、其色黒くして白條あり、大斧劈の皴をなす、右方に又た巨峰あり、亦た石、其色渥丹、解索皴をなす咄々空を摩して互に其の雄を爭ふ、峰に寸土なければ露根の赤松あり、亭々として雲漢を掃ふ江此に至りて束ねられて奔湍となり、水中の石皆な活きて船と共に走る、水も亦た沸湧して狼雨を作して横さまに船中の人を吹く、人皆な傘を開らいて過ぐ、行いて兩峰相迫るところに至れば、巨巖磊々として墮ちんとして未だ墮ちざるの勢ひをなす、嗚呼是れ實に阿賀の關門、其の髪を松にし其の衣を葛蘿にし、其膚を石にして、雨鏤風打せる嵒嶽たる兩個の金剛力士の、此の秀

麗なる江山を阿護するかと思はれたり、此の邊阿賀の江中奇勝第一たり『こばなし』といふ、是に於て酒を江心に注いで聊か河伯に酬ひざるべからず、乃ち手拭を裂きて條となし、麥酒の罎の頸に約して江に投じ、少時して揚げて之れを飲む、味ひ誠に異常、更に旅の硯を出し、傘の柄をもて水滴らし、墨を磨して昨夜作るところの詩を葉書に書し、以て諸友に贈る、潑墨漆の如し、水に靈あればなり、

是れより幾潭、又た幾灘、十二時小石取に至り船を苔磯に捨て、岸に上り、車を僦いて馬下の長橋を渡り、五泉を歴て、三時半、矢代田停車場に至り、汽車に投じて柏崎に赴く、此の夜友人植木鏡村氏の家に宿す

翌二十七日柏崎の紳士に随ふて、朝より北溪館に海水浴を試み、晚間、海岸を歩いて、鯨波に至る、途、驟雨に會ひ、滄海ホテルに入り憩ひ、雨霽れて汽車柏崎に還り、旅亭一二三に酌む、善く歌ふものと呼びて追分節及び米山甚句を聴き、更に柏崎の俗謡を歌はしめて之れを聴く

#### ▲三界節

出家様くくと戀にする、出家さア、出家様の御勸化、山阪越えてまゐりたや

柏崎より椎谷まで、間に一、荒濱荒砂、悪田の渡しが、なか好からう

谷根河内や青海川、子供一、米山参りや、我が身を清むる板川

座り地藏や立地藏、佛一、佛の癖して、魚の賣買番なさる

#### ▲お袈裟節

お袈裟くくと磯うつ浪はノ、何時も心がいそくと一

お袈裟躍れば板の間躍れよッ、板の響きで三味や不用

## ふところ硯終

明治三十九年六月增補

出版圖書目錄

東京市京橋區銀座三丁目  
左久良書房  
電話新橋三四〇番

文 學 雜 誌

藝 苑

實費金拾五錢 郵稅金壹錢

明治三十九年一月創刊  
每月一回一日發行

近 刊

國木田獨步君序 小杉未醒君著	河井醉茗君選	戸川秋骨君著
畫 集 漫 畫 一 年	詩 集 桂 の 卷	美文文 西 詞 餘 情
沼波環音、河井醉茗、鹿島櫻菴、浦原明雄、吉田孤雁、田井嶺、小島忠水、武林紅、國木獨步、樋口配天、小島象、等十有餘家	中 澤 弘 光 君 畫	和 田 英 作 君 表 意 裝 匠

# 既刊

遅塚麗水君著  
齋藤松洲君装釘意匠  
起行  
文庫  
**ふところ硯**  
製本費金七拾九錢 郵送費金八錢

一个掌大の古端硯、筆を染めて書き綴りたる旅の記の、其の墨の香の源は、古湯の花の涙、癡院の月の雫、鮎はしる溪の流れ、湧く玉のみたらしの泉、さては夜の泊の露の露より掬ぶ江の、水いろいろ、心さまざま、いづれも是れ清趣横溢。

岩野泡鳴君著  
小林千古君装釘意匠  
奇論  
一大  
**神秘的半獸主義**  
製本費金六拾九錢 郵送費金八錢

現代の淺薄虛偽なる科學と宗教とを打破し、直に赤裸裸の眞生命を活躍すべく「神秘的半獸主義」は甚深なる悲觀の實奥より生れたリ。踏するところ古今東西の哲人宗教家立論者に涉りて、エメルソン、メーテリンゲン、スケプテンホルク、等より布衍したる神秘的人生觀、戀愛論、國家問題、新藝術論に及ぶ。自然哲學、空想哲學、表象哲學と概稱推して、十有餘年滲溢し來れる著者が思潮は、今茲に一機迸發せり。

岡 鬼太郎君著  
鏑木 清方君畫  
花柳畫  
小説  
**夜帯**  
製本費金四拾五錢 郵送費金四錢

篇を二六の晝夜に分ちて、筆は世界の明闇を寫す、詩的散文を以て、情的風俗史を彩るもの、時人克く誰か當らむ。淫風日日香架を吹く、爽書か。巻頭著者は敢へて喝す、何さ不見點の賣れる世だよと。

伊良子清白君著  
長原 止水君畫  
詩集  
孔 雀 船  
製本費金七拾錢 郵送費金六錢

句句寶石の如く、節節彩翎の如く、長篇は白玉城廓の如く、短篇は煙星の如し。こは明治年間自然詩集の尤なるもの也。小島島水君曰く、君が描ける自然には心血の色あり、君が語る人間には微妙の情火あり、平生の鉛筆描修を傾注して、此巻成ると。

明治三十九年度  
**太平洋畫會カタログ**  
製本費金壹圓 郵送費金四錢

挿 畫 五十八圖  
畫 家 四十六名  
皆 是 傑 作 優 品

明治三十九年春季  
太平洋畫會展覽會  
**紀念繪葉書**  
六枚壹組金貳拾錢 郵送費金貳錢

石川寅治君の歸來洗刀、大下藤次郎君の隅田川、河合新藏君の入江、鹿子木孟那君描寫アングルの源、小杉未醒君の捕虜と其兄、滿谷國四郎君の多摩の霜葉等、會場中の逸品を收めたり。

國木田獨步君著

小杉未醒君書

小説運

命

製本費金七拾五錢 郵送費金六錢

馬場 孤蝶君選

齋藤 松洲君書

詩集春

駒

製本費金參拾五錢 郵送費金四錢

寫真文學記者

沙上 寫隱著

珍奇小

影

製本費金貳拾八錢 郵送費金四錢

網島 梁川君序

齋藤 弔花君著

小品心

扉

製本費金參拾五錢 郵送費金四錢

題已に痛絶、想豈に恨絶ならざらむや、一卷九篇の文、盡く人生の大秘奥を穿透し來りて、字字刀舞し、句句戟強す、如是の小説は娛樂的産物に非ず。

現に睡る野を焼けば、胸の脊駒戀を得て、わかき血汐に狂ふこと、燃えて騒れるかげろふや。白き鼓ふりみだし、西に勢へる駿足の、みるみる丘をのぼりては、凱歌あぐる焔かな。あらおもしろのながめよと、はらばひて吹く牧の子が、すさびの笛は草なれば、おのづからなる野の調。ほのはは高く天に和ぎ、笛の音清く地に流れ、情想融くなる春風の、また夢に入る紫野。

班帖につつむ初戀を、君と誓むな胸に咲き、胸に散りにし小きき花、その懐かしみ誰か知る。夜、手枕のひとり寐に、有情の夢のかたひや、曉、覺めてながめ入る、影は無心の笑まひかな。指優ふる二十年の、名残の色は艶なりき、今は昔の匂ひさへ、黄曆日にますうらぶれや。さげればほめくまめまめきの、眼さしに盡きぬ生命あれ、卷の寫給かずかすを、瓦とすてて玉と止めむ。

君の文情は箇印象派の畫情の如き乎、必しも寫實の刻劃を離らずして、而も熱情一味、滲とて人を酔はしむ、若しそれ小樽の蜜の、童の手を破りて、涙を流したるを見れば、恨なく心を傷ましめたる。さく其母仔嬉遊の姿を見れば、徐かに銃を投げて彼等を平和を破らじと趣に邂逅せる心地す。網島梁川君「心扉録」を讀むの一節

馬場孤蝶君選著

一條成美君作畫

詩集花

がたみ

製本費金參拾四錢 郵送費金四錢

著者細川花紅逸人

附録中村春雨君

小品

志保

製本費金六拾八錢 郵送費金八錢

著者細川花紅逸人

序文後藤宙外君

附録

中村春雨君

小品

ぶ

製本費金參拾九錢 郵送費金四錢

題序著表口寫附

字文者紙繪眞錄

尾巖

細川

紅波

小谷

紅波

小谷

紅波

小谷

紅波

小谷

紅波

小谷

紅波

小谷

紅波

小谷

紅波

小谷

紅波

小谷

紅波

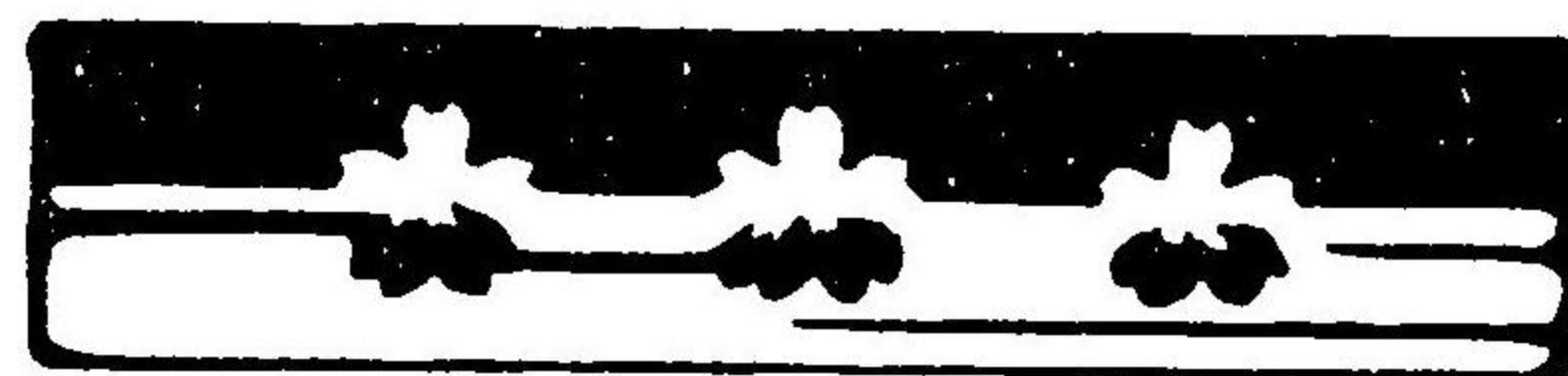
小谷

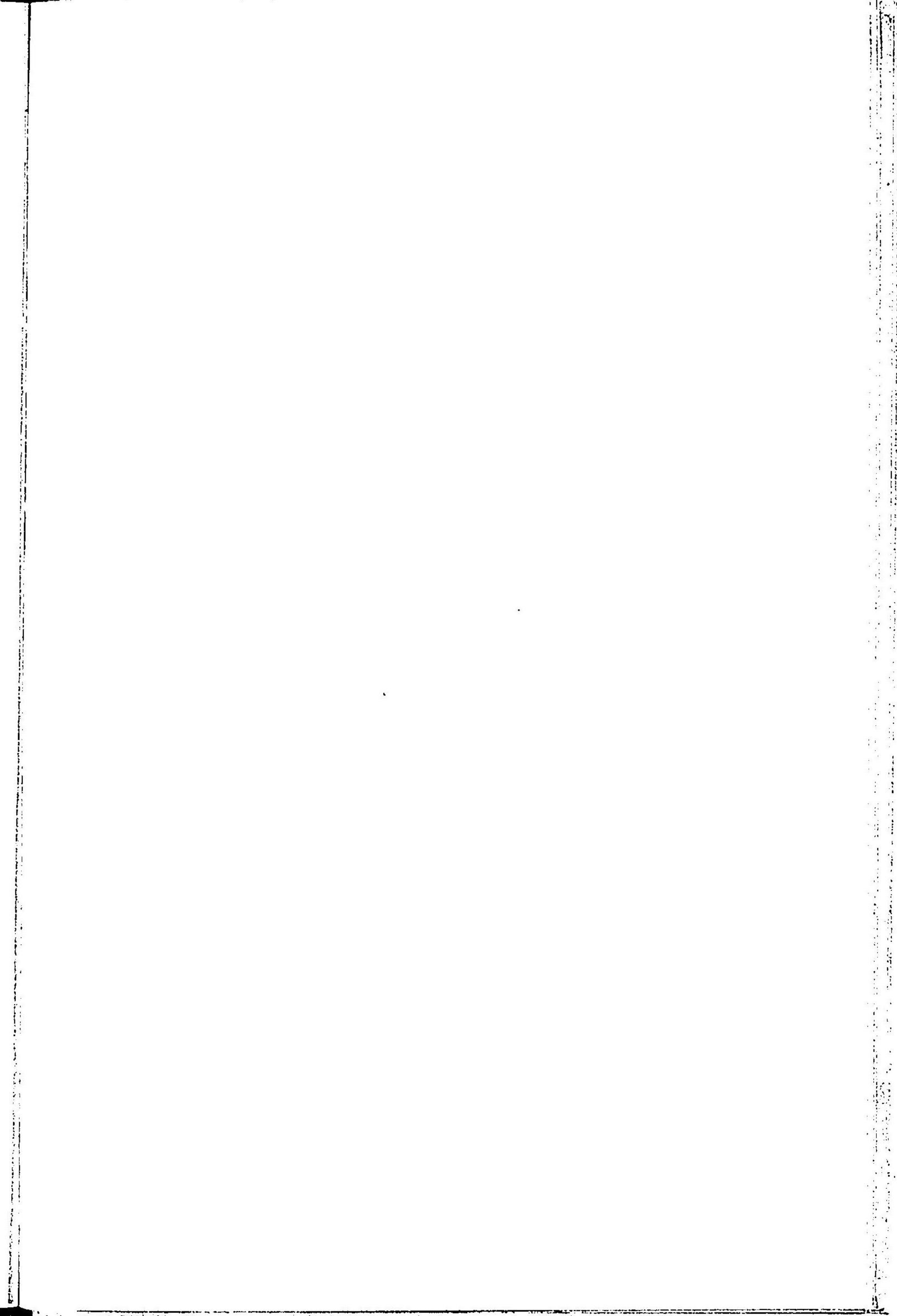


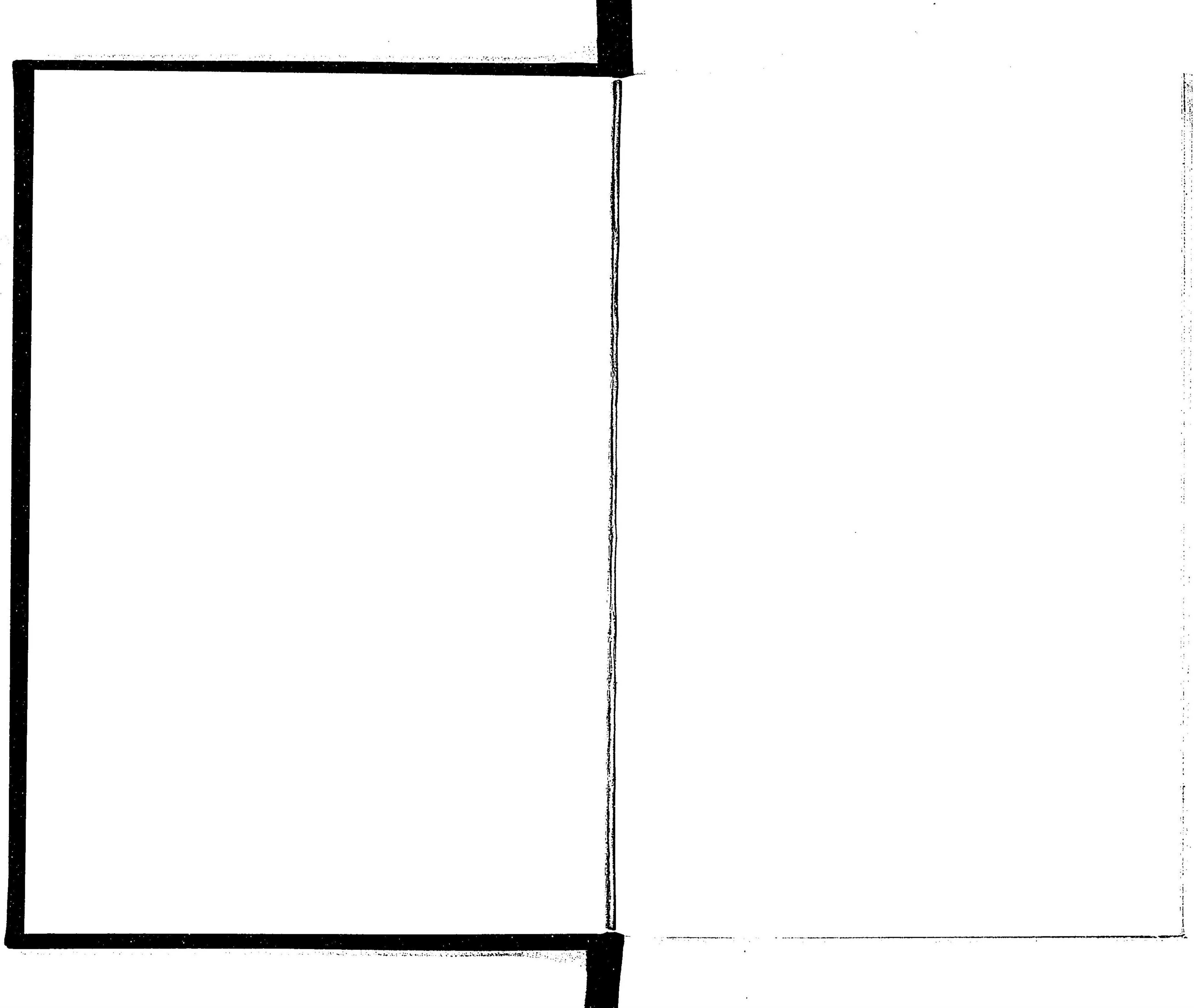


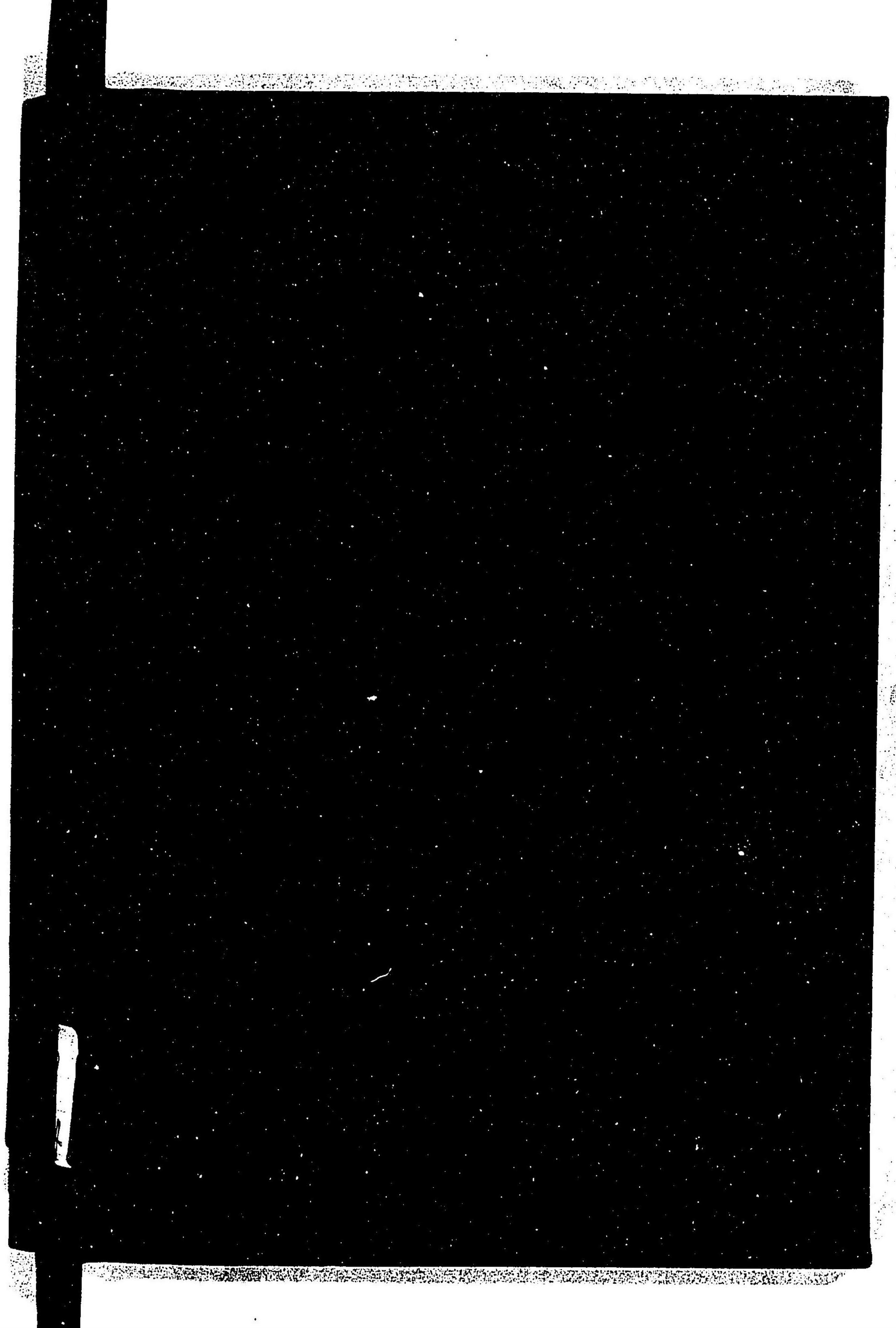


217A28









40

684

023106-000-5

40-684

ふところ硯

遅塚 麗水/著

M39

ADB-1114



